

4. 開葯と人工受粉

蕾が膨らみ、畑が桃色になりはじめた頃に、膨らんだ桃色の蕾・花をとる摘花作業を行います。

人工授粉に必要な花粉を確保するため、摘花した蕾と花から花粉を取る作業を開葯といいます。

開葯品種(花粉・花量の多い品種)は、あかつき、白鳳(千曲)、黄金桃、白根白桃、なつっこ、フレーバートップ、ファンタジア、川中島白鳳、サマークリスタル、秀峰等です。

- ・10a 当り必要花粉量は、花蕾で1kg位(収穫カゴ一個位)です。
- ・採花中の保管は日陰などに置き涼しい状態にしておきます。
- ・ビニール袋へ入れると蒸れるのでよくないです。
- ・段ボール・ネット・紙袋・収穫かごなどを利用します。

(1) 開葯場所

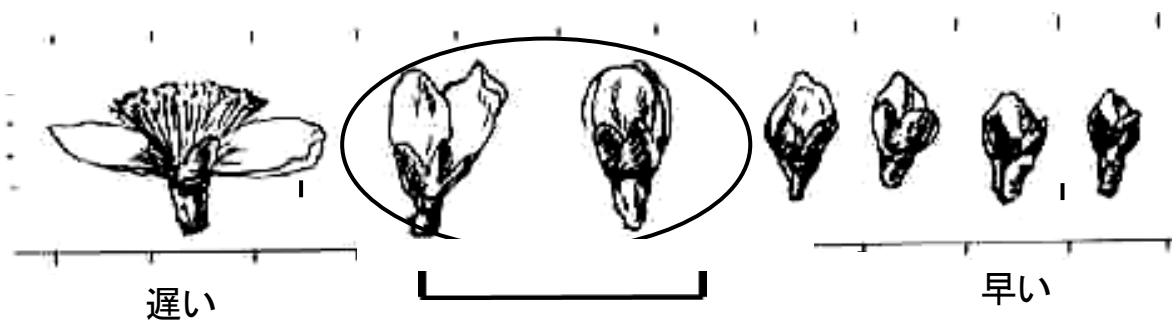
J Aの各流通センター・共選所にて実施します(詳しくは栽培アシスト情報「2021 果樹総合情報 3月号-後半」を参照)。

(2) 開葯方法

- ・摘花で集めた蕾と花を採葯器で細断します。
- ・花びらや花粉、ゴミが混ざったものをふるいにかけて、選別し葯を取り出します。
- ・選別した葯をトレーに乗せ、開葯器に入れ1日ほど乾燥させて葯を開かせ花粉を採取します。
- ・取り出した花粉は、乾燥剤と一緒に保管します。

開花の遅い川中島白桃に受粉する場合で、期間が長くなるようなら冷蔵庫で保存してください。

花の採取適期 ※開花直前(風船)～開花直後(未開葯)を採取。



花粉の発芽率は高いが、開葯しており、花粉の採取量が減少する。

この時期のものは、発芽率が高い。このような風船状を採取する。(開花直前～開花始め期)

この時期のものは発芽率が低い。

(2) 人工受粉

黄金桃は受粉樹としても活用できます。

川中島白桃へ受粉を行ってください。なお余裕があれば受粉を行ってください。品質の向上に効果あります。

- ① 5分咲き(下枝)と満開期(上枝)の2回実施します。
特に、上枝を重点に行います。
- ② 開花当日～4日後程度の間が、受精能力があります。特に2・3日目が最も良いです。
※花弁が白色からピンク色に変わったものを狙うと良いです。
※上枝と下枝、枝先と枝基では開花時期が異なるため注意しましょう。
- ③ 早朝等を行わず、気温の上がった(気温15℃以上、気温20℃適温)、午前10時～3時頃を目安にします。
- ④ 着果させたい所だけ狙いを定めて受粉します。後で摘果作業が軽減されます。
- ⑤ 花粉の利用は、開葯してから常温なら1週間以内とします。保存期間が長くなった花粉は使用しないでください。